



	特徴	メリット
インプット	航空写真(直下型、斜め型)および陸上写真	有人・無人を問わず、あらゆるアングルから撮影した画像を処理。
	あらゆるカメラ(コンパクト、一眼レフ、マルチスペクトル、GoPro)を .jpg または .tiff で提供	小型から大型フレーム、一般用から特殊カメラまで、あらゆるカメラで撮影した画像を使用可能。
	同一プロジェクトで複数のカメラをサポート	異なるカメラの画像を用いてプロジェクトを作成し、それらをまとめて処理することが可能。
特徴	テンプレート選択	必要なアウトプットに応じて異なる処理テンプレートを使用し、処理とアウトプットを最適化。
	出力座標系の選択	最適なワークフローを保証するために、選択した座標系でプロジェクトを処理。
	距離と面積の測定	正確なプランニングのために距離や面積を測定。アノテーションとして測定値を保存することもできる。
	体積測定	より正確な敷地調査のための、DSMに基づいた体積測定。
	標高プロファイル	DSMに基づいて標高プロファイルを生成。各ポイントの標高情報が表示される。
	アノテーション	さまざまなタイプのアノテーション(マーカー、点検、線、範囲、円、多角形)を追加することで、より価値の高い実用的な情報を共有。アノテーションは、.csv、.GeoJSON、Shapefiles などのさまざまなファイル形式でエクスポート可能。
	バーチャルインスペクター	3Dモデルやその作成に使用された画像上でのバーチャル検査。特定の画像をズームインし、ピン留めして、詳細情報やアクションを画像にコメントすることも可能。検査結果はアノテーションとして保存。
	マルチスペクトル処理とNDVI表示	マルチスペクトルデータセットをより高度に分析するためのNDVI マップを自動生成。デフォルトでインデックスの柱状グラフを表示。
	共有	注釈、測定値、標高プロファイル、ポリウム、プロジェクトをチームや関係者と共有することで、コラボレーションやレポートを向上。
既存の結果をインポート	オルソモザイクとDSMは、.geotiff、点群データは .las と .laz、3Dメッシュは .objファイル形式でインポート可能。	
出力	2D出力結果	GeoTiff 出力形式での直下型オルソモザイク。 .geojson、.csv、.shp 出力形式での 2D ベクトル。
	2.5D出力結果	GeoTiff 出力形式での DSM または DEM。 .las出力形式での3D点群。
	3D出力結果	.fbxおよび.obj出力形式での3Dテクスチャメッシュ。
		.pdf 形式での品質レポート。
サードパーティインテグレーション	Trimble Connect	Trimble Connectプラットフォームに選択したファイルをエクスポート
サポート	個人メール	ライセンス所有者は、メールでサポートに連絡することが可能。
	コミュニティ	誰でも書き込み可能なコミュニティ。
マルチリンガル	対応言語	英語、スペイン語、イタリア語、日本語、韓国語、フランス語、ポルトガル語(ブラジル)、タイ語、ドイツ語